

◎日本政局不安と米國
同盟來電—不發表

ワシントン八日加藤同盟特派員發

東京來電は汪精衛政権の諸問題が遂に閣議の承認を得、これが成立の近きを報ずると共に阿部内閣が對内問題で依然難局に直面し衆議院議員の過半数が阿部内閣不信任決議に署名したと報じ注目を惹いてゐる、最近に於ける日本の國內情勢に就いては米紙は相當の注意を向け寧ろ汪政権問題よりも阿部内閣の運命如何により多くの注意が拂はれてゐる有様であるが、對支問題、對米問題等の重大對外關係に直面し政策の遂行に邁進すべき内閣の基礎が搖ぎつつある如き印象を對外的に與へてゐることは事情の如何に拘らず頗る不幸なことと云ふべきである

東京電報は政黨勢力の擡頭を報じてゐるものの國內一致を缺いてゐる事實は對米交渉にしてもその重みを減ずるもので、米紙の中には日本は先づ我家を整へてかからないう限り對支問題にしても對外關係にしても何も出来ないさ嘲笑つてゐる論評を掲げてゐるものすらある始末である

他方米國に於いてすらルーズヴェルト政権が目下唱導してゐることは對外危局に面し何よりも肝要なことは國內統一、舉國一致であるといふ點で、右點は八日のジャックソンに於ける演説の根幹をなすものである、ルーズヴェルト大統領が過日の教書中で對外問題は國內問題と緊密不可分の關係があるを論じた點も同じ趣旨で、右は他面國內問題をカムフラージュする政策であるとはいへ、對外的に難局のない米國に於いてすら國內一致統一が叫ばれてゐる事實は日本としては三思すべきで、少くとも現在の重大時局に面して内閣の基礎が動搖してゐるこの連日の報導は對外交渉に處するに際して非常なハンディキャップであるこの感が深い。

内閣情報部一・九 情報號外

四川日本語放送（五日）

（電話妨害のため不明箇所多し）

（東京都市遞信局聴取）

一、今日は戦場に死した中國勇士を追憶すると共に過去一ケ年の中國抗戰の跡を見る事にしませう。

私共は中國の抗戰が愈々第二期作戰に入つたと思ふのでありまして百萬位の少數の兵力を廣大なる中國に散布するのであつては廣ければ廣い程兵力が薄く成る譯過去一ケ年の中國抗戰の跡を一括して見るに日本軍は益々弱く成るに反し中國最後の勝利の日は日一日と近づきつつある事を知る事が出來ます、昨年の日本の作戰は大體二期に分かれると思ひます、先づ日本軍は揚子江以北の河北を獨占し以て中國の内部と外部との交通を遮断せんとしたのであります、併し之の爲には平漢線を横斷し武漢より北方に向はねばならず、この爲めには更に山西南部の中國遊撃隊を肅清して掛らねばならなかつたのであります、然るに十四ヶ月に亘る作戰で何等得る處がなかつたのみか中國軍の強固なる防禦と追撃に逢ひ各地で敗戦を喫したのであります、かくて山西の肅清は未だしの有様で黄河を越え河南へ入る日本軍の計畫は紛碎されました……不明……日本軍は周章狼狽して撤退し中國軍は各地を